

CASBEE®あいち

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	クスリのアオキ上重原店	階数	地上1階
建設地	愛知県知立市上重原町城後19-1 の一部外23筆	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	500 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年9月 予定	評価の実施日	2020年3月4日
敷地面積	7,779 m ²	作成者	長江 有祐
建築面積	2,254 m ²	確認日	2020年3月4日
延床面積	2,221 m ²	確認者	長江 有祐

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																																																	
BEE = 0.9 ★★	★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★	★★★★★ 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★	標準計算	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内)																																																	
2-4 中項目の評価(バーチャート)																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">Q 環境品質</th> <th colspan="2">Q のスコア = 2.5</th> </tr> <tr> <th colspan="4">Q1 室内環境</th> <th colspan="2">Q3 室外環境(敷地内)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> </td> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <th colspan="4">Q1のスコア = 2.6</th> <th colspan="2">Q3のスコア = 1.8</th> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">LR 環境負荷低減</th> <th colspan="2">LR のスコア = 3.3</th> </tr> <tr> <th colspan="4">LR1 エネルギー</th> <th colspan="2">LR3 敷地外環境</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> </td> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <th colspan="4">LR1のスコア = 3.3</th> <th colspan="2">LR3のスコア = 3.4</th> </tr> </tbody> </table>						Q 環境品質				Q のスコア = 2.5		Q1 室内環境				Q3 室外環境(敷地内)								Q1のスコア = 2.6				Q3のスコア = 1.8		LR 環境負荷低減				LR のスコア = 3.3		LR1 エネルギー				LR3 敷地外環境								LR1のスコア = 3.3				LR3のスコア = 3.4	
Q 環境品質				Q のスコア = 2.5																																																	
Q1 室内環境				Q3 室外環境(敷地内)																																																	
Q1のスコア = 2.6				Q3のスコア = 1.8																																																	
LR 環境負荷低減				LR のスコア = 3.3																																																	
LR1 エネルギー				LR3 敷地外環境																																																	
LR1のスコア = 3.3				LR3のスコア = 3.4																																																	
3 重点項目																																																					
①地球温暖化への配慮		③敷地内の緑化		④地域材の活用																																																	
3.5 		1.0 		1.0 																																																	
各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。 ①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮 ②資源の有効活用 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減 ③敷地内の緑化 Q-3 1 生物環境の保全と創出																																																					
外構緑化指標 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$ 建物緑化指標 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$																																																					

スコアシート	実施設計段階	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
配慮項目	重点項目								
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				0.1	3.2	0.15			2.5
2 界壁遮音性能				3.0	3.0	0.40	3.0		2.6
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				0.4	3.0	0.40	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	1.00	3.0		
1.3 吸音				-	-	-	-		
2 溫熱環境				-	4.0	0.20	-		3.2
2.1 室温制御				0.3	2.0	0.35	-		2.0
1 室温				0.5	3.0	0.50	-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.50	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.17	-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.33	-		
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.20	-		
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25	-		3.0
3.1 昼光利用				0.5	3.0	0.50	-		
1 昼光率				3.0	3.0	-	-		
2 方位別開口				3.0	3.0	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				5.0	5.0	-	-		
3.3 照度				3.0	3.0	-	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.50	-		
4 空気質環境				0.2	3.0	0.25	-		3.0
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-		
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00	-		
4.2 換気				0.3	2.0	0.30	-		
1 換気量				3.0	3.0	0.50	-		
2 自然換気性能				3.0	3.0	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.50	-		
4.3 運用管理				0.2	2.0	0.20	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50	-		
2 喫煙の制御				3.0	1.0	0.50	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.0
1 機能性				0.4	2.7	0.40	-		2.7
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-		
1 広さ・収納性				3.0	3.0	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-	-		
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	1.00	-		
1.2 心理性・快適性				0.3	2.6	0.30	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	5.0	0.33	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	2.0	0.33	-		
3 内装計画				3.0	1.0	0.33	-		
1.3 維持管理				0.3	2.5	0.30	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	2.0	0.50	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50	-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31	-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.2	0.33	-		
1 車体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	2.0	0.23	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	5.0	0.09	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-		
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19	-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-		
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり	②	階高 (4.90m+5.87m)/2=5.385m 壁長さ比率 0.08	0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			0.3	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m 0.87	3.0	4.3	0.30	-	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	2.8	0.30	-	-	-	2.8
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		便器の擬音装置、水栓の自動水栓	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.3	0.63	-	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		外壁グラスウール、天井裏グラスウール、ポーチタイル	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS+GB-R	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		グラスウールを使用	-	5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO ₂ 排出量 87%	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			0.3	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制		チェックリスト参照	0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	5.0	0.70	-	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}$
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 クスリのアオキ上重原店

計画上の配慮事項	
総合	【「健康と美と衛生」を通しての社会貢献】という経営理念に基づき、土地の活用を目指して利用者の視点に立った店づくりをしている。
Q1 室内環境	天井や床には吸音材が使用されており、吸音率を高めて利用者が過ごしやすいよう配慮されている。また、F☆☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用しており、室内の空気環境に配慮している。
Q2 サービス性能	天井高や階高、空間にゆとりを持たせることにより、利用者にとっての快適さが得られている。マルチWCの自動水栓器具設置や車椅子使用者用駐車施設の整備など、様々な利用者にとって使いやすい建物となっている。
Q3 室外環境(敷地内)	目隠しフェンスやメッシュフェンスを設置しており、防犯性を高めている。
LR1 エネルギー	LED照明により、設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	グリーン購入法適合品や節水機器を活用して、環境に配慮している。躯体と仕上げ材は容易に分別可能となっており、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。また、発泡剤を用いた断熱材を使用しておらず、地球温暖化防止のための取組みを行っている。
LR3 敷地外環境	利用者用の自転車置場や駐車場を確保しており、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。また、光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図っている。
その他	特になし